

未来の農業に向けた

沼田町スマート農業

本年の取り組み

労働力不足や一戸当たりの経営耕地面積の増加が見込まれる中、農作業の効率化・省力化が必要であり、競争力のある持続可能な産地の確立に向けて、本年度スマート農業技術の普及推進を図るため、沼田町スマート農業研究会（須網賢一会長）が設立されました。

研究会では、ICT農業技術の情報収集、研修、実証試験等を実施し、広く農業者がICT技術を活用できる環境整備を目指しています。

●スマート農業とは

ロボット技術やICT（情報通信技術）を活用して、省力化・精密化や高品質生産を実現する新たな農業のことです。

沼田町スマート農業研究会では研究計画により現在、各システムや機器の実証試験を実施しています。

実証試験はすでに3つの試験を実施しており、今後は無人のロボットトラクター2台による協調作業デモンストラクションを実施する予定となっています。

これらの実証試験結果をもとに今後効果検証を行い、課題等と向き合いながら、今後のスマート農業の推進に向けて取り組んでいきます。



スマート農業の普及促進に向けた 実証試験の紹介

6/25

水田センサー実証試験

10基のセンサーを10地区の水田に設置し、水位・水温・土壌温度をリアルタイムで情報収集しました。

水田の状況はスマートフォン等にインストールした専用のアプリケーションで外出先や自宅から確認できるため、見回り回数や時間を削減でき、その省力化の効果を検証しています。



7/1

ほ場水管理システム 実証試験

水田に多機能型自動給水栓を設置し、遠隔操作により外出先や自宅から給水操作を自動化することで見回り回数やほ場での作業時間を削減でき、その省力化の効果を検証しています。



7/10

農業用ドローンの 実証試験 (リモートセンシング)

あらかじめ設定したほ場の区画内をドローンが自動空撮し、その写真を専用ソフトで解析して作物の生育マップを作成します。生育マップを分析することにより、稲の生育の悪い場所の原因特定に利用できたり、畑で活用すれば生育状況に応じた追肥を行う等、作業の効率化が見込めます。



7/27

ドローンでの 農薬散布

